2026 年 6 月 26 日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

Claude が ChatGPT を抜き利用率トップに
バイブコーディングも約 7 割が実践経験あり

GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、2026 年 6 月に実施した調査の結果、グループ全体の生成 AI 業務活用率は 98.7%に到達しました。さらに、日常利用する生成 AI サービスは Claude が 73.4%と急伸し、利用率トップになりました。なお、グループ代表の熊谷正寿も率先して Claude Code によるバイブコーディングを実践しており、直近 2 ヶ月では AI と共に試行錯誤しながら、10 万行のコードを AI に書かせアプリを開発、自らの課題を解決しています。

■調査サマリ

- 2026 年 6 月時点で全体の生成 AI 業務活用率は 98.7%（前回調査差＋0.9 ポイント）、89.3%（前回調査差＋5.6 ポイント）のパートナーがほぼ毎日利用している
- 月間の業務削減時間は 43.2 万時間、1 人あたり約 65.1 時間（前回調査差＋11.2 時間）
- 日常利用する生成 AI サービスは Claude が 73.4%、次いで ChatGPT が 72.3%、Gemini が 64.3%という結果に
- 「GMO AI ブースト支援金」(※1) の効果は続き、有料サービス契約率 89.5%（前回調査差＋7.5 ポイント）と大幅増
- AI でサービスやツールを開発するバイブコーディングは、「業務で実践」と「試したことがある」人を含めると約 7 割。そして、4 割以上（40.8%）の人が業務で実践している

■調査概要

- 調査テーマ　：「生成 AI 活用」実態調査
- 回答者数　　：5,621 人（有効回答 5,621 人）
- 調査対象　　：GMO インターネットグループの国内パートナー
  （正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託）
- 調査期間　　：2026 年 6 月 8 日（月）～6 月 12 日（金）

GMO インターネットグループ定点調査：https://group.gmo/news/

（※1）「GMO AI ブースト支援金」https://group.gmo/news/article/9513/

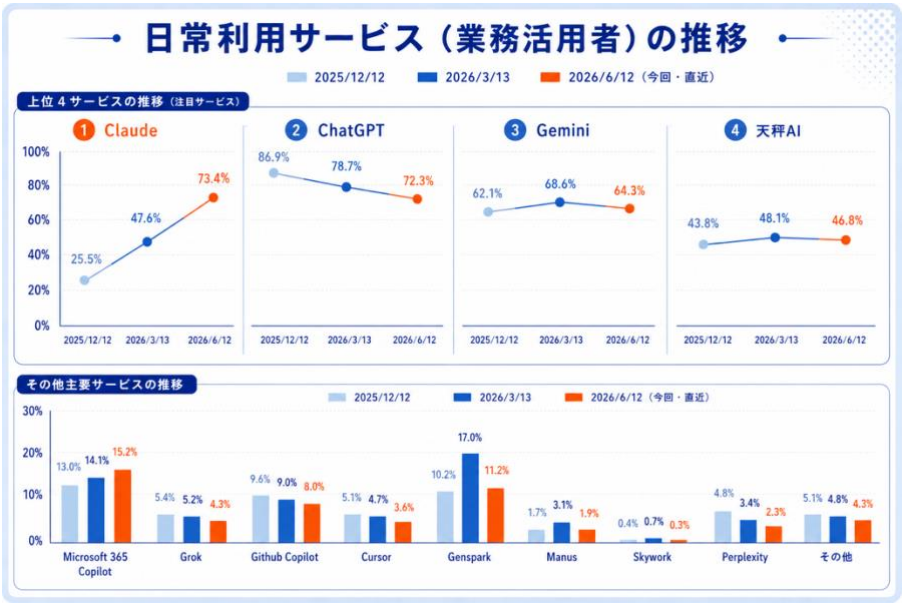
【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

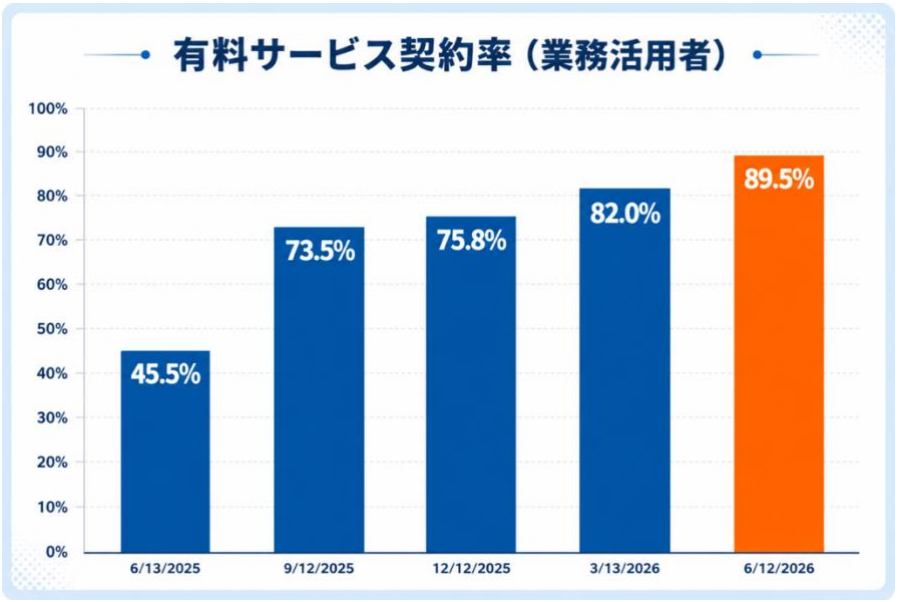
■2026 年 6 月時点で全体の生成 AI 業務活用率は 98.7%（前回調査差＋0.9 ポイント）

- 国内パートナー（シフト勤務除く）の 98.7%が生成 AI を活用（前回調査差＋0.9 ポイント）
- 利用頻度に関しても「ほぼ毎日利用している」人が 89.3%（前回調査時＋5.6 ポイント）
- 生成 AI の活用で、ひと月あたり約 43.2 万時間の削減、1 人あたり約 65.1 時間（前回調査差＋11.2 時間）の削減を実現しました。

■日常利用する生成 AI サービスは Claude が 73.4%、次いで ChatGPT が 72.3%、Gemini が 64.3%という結果に

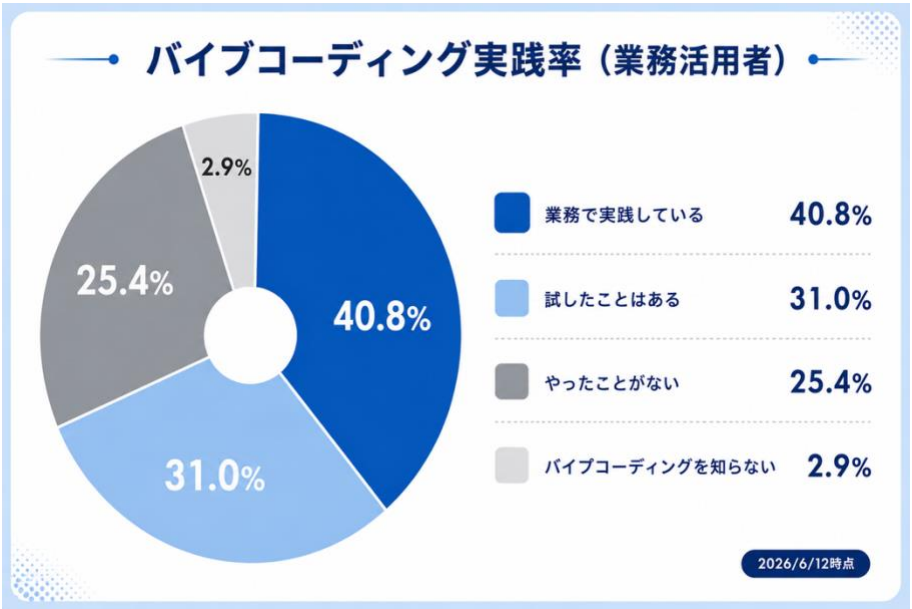
- これまで ChatGPT の利用率がトップでしたが、今回は Claude が急伸し 73.4%でトップの利用率となっています。
- 有料サービス契約率も 89.5%（前回調査差＋7.5 ポイント）と大幅増となり「GMO AI ブースト支援金」が浸透してきている結果となりました。





■バイブコーディングは業務活用と試したことがある人を含めると 71.8%の人が実践しており、40.8%の人が業務で実践

- バイブコーディングを業務で実践している、あるいは試したことがある人は 71.8%でおよそ 7 割のパートナーが実践経験があります。
- 特に、業務で実践している人は 40.8%（約 4 割）に達しています。



■まだ自分（人間）がやった方がいいと感じたことは？

・　ハルシネーション対策のため、最後の確認は人間がすべきとの回答は引き続き多く見られました。特に数値・日付・法律情報などは注意が必要です。
・　対人業務は人間がすべきという回答も引き続き多く見られました。AI の「察する」能力への限界感は多くのパートナーの共通認識としてあるようです。
・　生成 AI へのコーディング依頼は増加傾向にありますが、「任せすぎ」による事故が実体験として発生しているため、人間のレビューは必須との意見がありました。

■パートナーのコメント

<AI を使っていて「まだ自分（人間）がやったほうが良い」と感じたことがあれば教えてください。>

・　「AI 活用の前提となる自分で調べ・考える姿勢が薄い場合、AI に頼ることで思考が浅くなりかえって確認コストが増える」
・　「行間を読む複雑なコミュニケーションは AI では難しい」
・　「AI は論点整理・たたき台までは作れるが責任を持つのは人間」
・　「AI はコード生成スピードは圧倒的に速いが品質を担保するのは人間のレビュー。特に複雑なビジネスロジックでは要注意」

■ 生成 AI を使いこなしている人の条件とは？

・　「業務で成果を出す」が最多の回答となりました。「知っている」より「成果が出ている」ことが評価基準として重視されるようになっています。
・　「人と AI の役割分担ができること」が次いで多い回答でした。AI に全面依存するのではなく AI と人間に適切に分担できることが使いこなしの本質として認識されています。
・　AI の出力を鵜呑みにせず、仮説を持って検証し、自分の言葉で説明できる人への評価も高く、判断力・説明力が AI リテラシーの前提として定着しています。

■パートナーのコメント

<あなたにとって、生成 AI を使いこなせているなと思う人はどんな人ですか？>

・　「アウトプットではなくアウトカム（事業価値）に繋げられている人。アウトプットは誰でも出せる時代なので、よりアウトカムにコミットできているかが大事。」
・　「AI に任せる部分と自分で判断すべき部分を切り分けられる人。業務を工程に分解して AI が扱える形に言語化でき、出力を鵜呑みにせず品質チェックを自分で行える人。」

【グループ代表 熊谷正寿コメント】

GMO インターネットグループは 2027 年 11 月のハイパーオートメーション化に向け、邁進しております。そして、私自身がその最前線で AI 活用を推進・実行・率先垂範しています。AI は経営者自らが使いこなしてこそ、組織全体に本物の変革をもたらすと私は考えています。私は、Claude Code でバイブコーディングを実践し、自身の課題解決のために「人生のコントロールパネル『夢が、かなう Cockpit』」というアプリを自ら開発、現在も日々アップデート中です。

GMO インターネットグループは、コーディングがすでに人間ではなく AI の仕事になった現実を踏まえ、エンジニアを含む企業全体の組織体制や業務のあり方を見直します。そして、AI ナイズされた組織へと変革します。パートナー全員が自らの課題をバイブコーディングで解決し、トークンマネジメントで生産性を最大化する。これを GMO インターネットグループの目指すハイパーオートメーショングループの理想とします。

【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培（り じゃんべ）コメント】

プロンプトエンジニアリングからコンテキストエンジニアリング・AI オーケストレーションへ、そして今、ループエンジニアリングの時代へ。目眩がするようなスピードで我々を取り巻く環境は進化しています。

これからは、AI が自ら検証し、修正し、再実行するサイクルそのものを再構築することが、私たちの新しい仕事になります。そのループを賢く回し続けるために必要なのが『第二の脳』としてのグラフ DB、僕はこれに今一番注目しています。ノードとエッジで結ばれた知識は、検索ではなく『連想』で呼び出され、個人の暗黙知が組織の資産として構造化されます。つまりシナプスの再現ですね。ループが知識を生み、グラフが知識を繋ぎ、繋がった知識がまた次のループを賢くする――2026 年は、この循環により組織の知性そのものを変革・向上する楽しみな年となります。

【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインやサーバーレンタル、決済などビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を主軸に、インターネットセキュリティ、インターネット広告、インターネットメディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。また、「AI とロボティクスで未来を創る No. 1 企業グループ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。(※2)

これまで、AI リスキリング施策「虎の穴」などの取り組みを進めてきましたが、2025 年 5 月には、AI 活用を推進するために年間 10 億円（一人当たり平均 1 万円／月）を投資する「GMO AI ブースト支援金」を創設。さらに Claude の急激な進化に即応した「GMO AI ブースト支援金 for Claude」(※3) として 11.5 億円を追加投資しています。（2026 年 2 月）

2026 年 1 月からはパートナー全員が集中して真剣に AI に取り組む日として、「GMO AI Day」を制定しました (※4)。これらを通じ、GMO インターネットグループは、2027 年 11 月 30 日までに、AI エージェントをフル活用する「日本で最もハイパーオートメーション化された企業グループ」(※5) を目指しています。

（※2）参考 URL 「AI とロボティクスで未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み https://group.gmo/ai-history/

（※3）参考 URL https://group.gmo/news/article/9909/

（※4）参考 URL https://group.gmo/news/article/9887/

（※5）参考 URL https://group.gmo/news/article/9771/

以上

【報道関係お問い合わせ先】
●GMO インターネットグループ株式会社
グループ広報部　PR チーム　倉田
TEL：03-5456-2695
問い合わせフォーム：https://group.gmo/contact/press-inquiries/

【GMO インターネットグループ株式会社】（URL：https://group.gmo/）

会　社　名	GMO インターネットグループ株式会社　（東証プライム市場　証券コード：9449）
所　在　地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号　セルリアンタワー
代　表　者	代表取締役グループ代表　熊谷　正寿
事 業 内 容	■インターネットインフラ事業　■インターネット広告・メディア事業 ■インターネット金融事業　■暗号資産事業
資　本　金	50 億円

Copyright (C) 2026 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.